

令和3年10月10日

愛知県上海産業情報センター

林 秀 幸

一般調査報告書

急成長する中国コーヒー市場について



「熊の手カフェ」で知られる上海市のカフェ「HINICHIJOU」
アプリで注文すると熊の手が商品を渡してくれる（上海市永康路にて撮影）

2021年8月に発表された中国税関総署のデータによると、中国における2021年上半期のコーヒー豆の輸入量は前年同期比の約2倍（6,177万Kg）となり、輸入額は76%増加したとのことでした。主な輸入元は、1位ベトナム、2位ブラジル、3位コロンビアの順となっています。

こうした輸入増の背景には、中国国内のコーヒー消費市場の急速な拡大があるとされています。

今回は、中国コーヒー市場の最新状況について報告します。

中国のコーヒー消費文化

かつては、中国はお茶の国でありコーヒーは普及しづらい、といった雰囲気がありました。砂糖やミルクを大量に入れた粗悪なインスタントコーヒーが主流であった時代から、現在のバリエーション豊富なコーヒー市場が中国に誕生

したきっかけの一つは、スターバックスの進出であったと言われています。

1999年に北京に1号店を出店したスターバックスは、2021年6月末時点で中国全土に5,000店舗以上を展開するまでになりました。これは米国本土（15,000店舗以上）に次ぐ世界第2位の出店数です。中国のGDPが右肩上がりの成長を続ける中、それに合わせて中間所得層の割合も高まり、消費能力の向上と洗練されたコーヒーに対する消費需要が増していったことが背景にあるようです。

また、少し以前には、スターバックスがブランドステイタスとして「ちょっと贅沢な嗜好品」であった状況から、近年は中国系のコーヒーブランドが数多く台頭してきたこともあり、数ある選択肢の一つとして日常的に利用されるような存在に変化してきました。特に、中国系のラッキンコーヒー（瑞幸珈琲）やMANNER COFFEEといった新興ブランドが、注文から受け取りまでの手軽さや、高い品質を維持した珈琲を安く売るといった戦略でコーヒー市場の裾野を広げてきた感があります。



広西壮族自治区にあるスタバ



福建省にあるスタバ

前瞻産業研究所が発表した「中国コーヒー産業市場の需要と投資計画に関する分析報告書2020-2025」によると、中国の一人当たりのコーヒー消費量は、2013年から2019年までの6年間、年々増加を続けています。2019年の1人当たりのコーヒー消費量は7.2杯/年で、2013年の3.2杯/年から倍増しており、年間平均成長率は15%となっています。世界の平均成長率が2%と言われている中、それをはるかに上回るペースで成長していることが伺えます。

各地にカフェ激戦区

上海市内には少なくとも8,000店舗以上のコーヒー店が存在すると言われていています。市の中心部には個人経営のカフェが立ち並ぶカフェ激戦区が幾つも出現しており、冒頭に掲載している「熊の手」カフェもそうした通りの一角にあるお店です。こうした街のカフェは、コーヒーのみならずスイーツや洋食などのカフェメニューも充実してきており、特に若年層を中心にカフェブームが巻き起こっています。

また、スペシャルティコーヒーのような高品質で特徴のある豆を使ったコーヒーの人気も高まっており、産地や焙煎方法、淹れ方にこだわったお店も増えてきました。

特に最近では、中国産のコーヒー豆を使用したスペシャルティコーヒーにも人気が集まっており、世界的に注目される銘柄も出てきています。



永康路のカフェ街

雲南珈琲

中国産コーヒーの代表格としていま最も人気を集めているのは雲南省産の「雲南珈琲」と呼ばれるコーヒーです。

中国のコーヒー豆の産地は、主に雲南省、海南省、四川省に分布しています。特に雲南省は中国で最初に大規模なコーヒー栽培が始まった地域であり、栽培地面積は全国の約70%を占め、生産量は全国の83%を占めていると言われています。

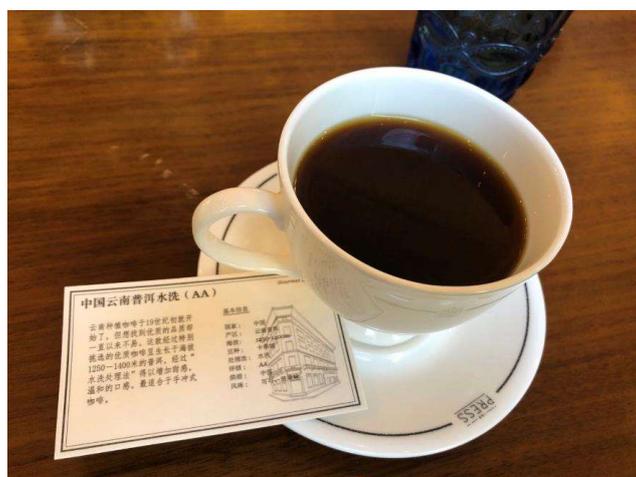
雲南省のコーヒー栽培は1980年代に大手コーヒーメーカーである「ネスレ」がプーアール茶の産地であるプーアール市で大規模な栽培を行ったのがきっかけであったと言われています。コーヒーベルトと呼ばれる北回帰線から南回帰線の間地帯に位置する雲南省は、標高が約1,900m、年間平均気温が15～20度と、コーヒー栽培に適した土地であったようです。

現在では、スターバックスを始め多くの世界的コーヒーメーカーが雲南省産のコーヒー豆を扱うようになっており、現地に直営農園や工場を設立するようになっていきます。

雲南珈琲は、アラビカ種とロブスタ種を掛け合わせたカチモール種という品種が主流です。病害虫に強く大量生産向きとされ、味は少し劣ると言われてきたようですが、近年は品種改良が進み高品質な豆も生産されています。

実際に飲んでみると、口当たりがよく、苦みが少なくスッキリとした味わい

が特徴です。あくまで個人的感想ですが、雲南珈琲には、お茶文化の国に相応しい、さっぱりとした飲みやすさがあるように思います。



雲南珈琲（上海市内にて）

コーヒー需要は今後も拡大

今年に入り、コーヒー豆の価格高騰が問題になっているといった報道があります。その原因には、世界最大の生産国であるブラジルの干ばつ被害や、新型コロナウイルスの影響によるベトナム産などの輸入が停滞しているといった背景があるようです。年初に比べて40%以上も価格が値上がりしているといった話もあり、大手コーヒーチェーンは1杯あたりの値上げを検討せざるを得ないといった状況のようです。ただ、逆に国内産の雲南珈琲などにとって、こうした状況が需要拡大のチャンスになる可能性もあるかも知れません。

国内のコーヒーチェーン店の競争は激化する一方ですが、コーヒーの需要そのものは、カフェ文化の広がりと共に今後もまだまだ拡大することが見込まれそうです。

引き続き、現地の状況を注視してまいります。

参考：最近の中国内の主な動き

2021年

- 9月10日 ・中国自動車工業協会は、8月の新車販売台数が前年同月比17.8%減の179万9,000台と発表
 - ・ローソン中国が現地店舗数4,000店に到達
- 9月15日 ・上海市は、市内在住の12～17歳の外国人の新型コロナワクチンの接種予約を受付開始
- 9月16日 ・中国政府は、環太平洋連携協定(TPP)への加入を正式に申請
- 9月18日 ・中国国家税務総局は、芸人への税務調査を強化すると発表
- 9月21日 ・垂駐中国大使は、吉林省トップの景俊海書記と会談。新型コロナ

ウイルスの収束後には、長春と東京、長春と名古屋間の直行便を最初に回復するよう要望

9月25日 ・遼寧省瀋陽市は、海外からの入境者に対し、28日間の隔離措置を実施すると発表。隔離期間後はさらに28日間の健康管理を実施

9月28日 ・中国の原子力発電量が2020年に米国に次ぐ世界第2位に（仏国を抜く）

上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。